

## 第37回 連携会議記録

日時 2012/11/15 14:00～

会場 市庁舎 401 号会議室

参加者数 22/23

### 会議の記録

#### < 報告事項 >

##### (1) 備品台帳作成業務について

調査研修部から、これまでの部内で話し合い、資料収集の状況、市教委との意見交換について報告があり、その報告に基づいて、これからの大まかな方向性について交流を行った。交流においては、現場としては一定の期間までに、紙台帳のデータについてもワークシートに全校が転記を行う方向ですすめることが了解された。今後の連携会議で、ワークシートの項目や転記の期限などについて確認をしていくこととし、その際「備品台帳整備の手引き」(仮称)を市教委と連名等の方法で作成すべきとの意見も出された。

#### < 協議題 1 > 「学校財政に関する調査」について

集計データについて調査研修部から提案。事務局からも若干の補足をしたのち内容を確認。

#### < 協議題 2 > 「学校財政に関する調査」報告について

事務局より提案し、提案通り確認。

#### < 協議題 3 > 「提言 2012 に向けて」(その 1)

(1) 「教材備品の執行方式について」に関わって、事務局から、市教委との意見交流の内容を補足説明。補足説明の内容は以下の通り。

- ・ 学校の現状を踏まえて、市教委としても検討の余地はあり。財務規則の変更は必要なし。
- ・ 基本は、緊急時については、市教委に相談してくれたら個々詮議する。これはこれまでもご案内している。
- ・ 学校側に立ってルーチンを変更するとすれば、例えば計画書の提出を前後期に分けるなどの方法。ただし、後期については年間教育計画の観点からは査定を厳しくせざるを得ない。そうすると、結果的に前期にほぼ計画をまとめてしまう学校がおおくなるのではないか。
- ・ 上記の方法を取った場合、市教委として若干作業量は増えるが、許容範囲内である。

この説明に対し、「前後期に分けるなどの方法が可能になれば、教職員から 2 回で計画することを望む声ができるのではないか」「1 回で提出する方法もとれるのか」「2 回目を後期の始まりまでに提出するという方法もとれるのでは」などの意見が出された。

(2) 提言テーマの募集に関わって、「学校配分予算の積算基礎明示」を提言すべきという意見が出され、論議した。事務局からは、「標準運営費」の全道状況や課題について解説した。他の学校からは「職員が 5 名も増えたのに、配分予算に反映されていない」現状も報告があった。事務局として、調査も含めた検討をすると回答があった。